

2年2組

2組1班

SDGsの番号：3、8、9

医学・工学による技術の発展

現代の医療では、少ししか取り入れてられていない医学と工学の連携の発展が今後必要になると思う。一つ挙げられるのは、世界初のスマート治療室「SCOT」である。「SCOT」は各分野のエキスパートがつながり、国や地域をこえた最高のチームでつくられている。だから、治療される人も安心できる。「SCOT」が普及すれば、国境や環境をこえて、どこにいても最良の医療がうけることができ、幅広い人たちが利用できるのだ。また医療とロボットと一緒に治療すると効率がよくなり、成功率が上がると考える。それだけではなく、医者にとってはその成功体験が今後の困難な治療に対するモチベーションに繋がると考えられる。医学は自分たちにとって不可欠な物であり、これから先も必ず必要となってくる。発達させなければならぬのだ。医療と工学が組み合わせれば、現在は治せない病気も治す事が可能になるかもしれない。

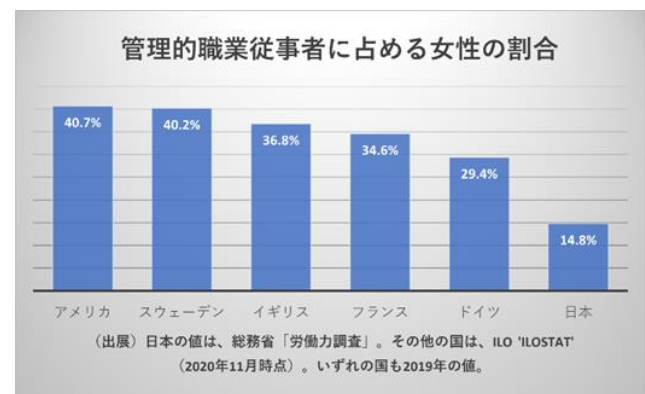


2組2班

SDGsの番号：5

女性の社会進出

女性の社会進出が進んでいるが、世界に比べて日本は遅れていることもある。なぜそう言えるのか。最も大きく取り上げられているのは育児と仕事の両立の難しさである。現在「出産育児制度」を導入している企業が増加しつつあるがその制度を使った時に問題がある。復帰時に元のポジションに戻れず出世しづらいのだ。育児があると長時間働けないため管理職に就くのも難しい。しかし、これは日本ならではの。世界では女性が育児・家事をするというイメージは少なくなっている。男性の育児休暇も進んでおり女性の負担も減っている。保育園の送迎などにも対応した1時間単位の「有給休暇制度」などの解決策も出されている。日本は世界より遅れをとっている。それは昔の「外で働く夫」「家庭を守る主婦」という考え方が残り続けているからだと思う。性別にとらわれず育児も仕事も両立できる社会にしていけることが今の日本には必要なのではないだろうか。



2組3班

SDGsの番号：7

節電の重要性について

私達の生活に電気は必要不可欠だが、日本では電力が少しずつ枯渇してきている。この問題についてあまり知られていない、意識されていないのが現状である。なぜ電力が枯渇してきているのか簡単に説明すると、近年日本の冬の気温が年々低下しており、暖房、炬燵などの電力の需要が増している。それ以外にも冬はたくさんの電力を必要とするため、今後もこの調子で気温が低下していくと考えると、予想よりも電力使用量が増え、電力が枯渇していく事になる。ではどうすれば電力不足を少しでも軽減できるのか。私達にもできる事があると思う。私達が節電していけば少しでも変わると思う。ただ私達が節電しても意味がない、国規模で何かしなければどうにもならない、と考える人もいる。その考えが理解できない事もないが、何が解決に繋がるかわからないし、他にもいい方法が見つかるかもしれないので、自分達のできる事から行動していこう。



2組4班

SDGsの番号：7

エネルギー資源の重要性

現在、夏の電力不足の懸念が生じていることから、政府が7年ぶりに全国規模の節電要請を出しました。今日本は電力不足で大変です。なぜ、このようになってしまったのか。原因としては相次ぐ火力発電の休廃止や、コロナ禍となってリモートワークやおうち時間が増えたため、ロシアによるウクライナ侵攻の影響、そして梅雨明けが例年よりも早く、暑い夏がいつもよりも早くきたことの4つが大きく関わっていると思います。日本は、エネルギー資源に乏しいため、石油や石炭、天然ガスなどの資源をほとんど他国からの輸入にたよっています。現在の社会情勢により、エネルギー資源の輸入が非常に厳しくなっている現状に対し、政府が要請を出してきたことをきっかけとして、今あるエネルギー資源をどれだけ大切にわけあって使うことができるのか、そして最悪の大規模な停電を防ぐことができるのかを僕たちも考えることが大切だと思います。



2組5班

SDGsの番号：12

フードロスを無くそう

SDGsの中でもフードロスに関しては身近であり、人々の関心の高い項目でもある。そこでフードロス削減について、調べてみた。2018年、19年頃には節分で食べられる「恵方巻き」の大量廃棄が大きく取り上げられた。節分が過ぎ、売れ残りが大量に廃棄され、この問題に対して消費者は声をあげた。各社は予約の方法を工夫するなどロスの削減に取り組んでいる。また、『3分の1ルール』という業界習慣も存在する。それは賞味期限の3分の1の期間でメーカーに出荷されて、期限が迫ってくると、ディスカウントストアに販売され、多くは廃棄されていた。販売店なども機会損失を無くし、できるだけたくさんを売上げを上げたいと考えるが、消費者とも協力しながらもったいないフードロスを減らすことで信頼性の獲得と経費の削減にもつながる。フードロス削減のために私たちが出来ることは、食べきれないほどのものを買わない。安売りやまとめ売りに惑わされないなどが考えられる。また余ったものはフードバンクなどに寄付して有効活用しよう。



2組6班

SDGsの番号：12、16

私たちが動物を守る

6月1日からペットの犬や猫へのマイクロチップの装着が義務付けられている事を知っていますか？その義務化に伴い、ブリーダーが犬を輸出する際に偽造した証明書を提出した事件がありました。そこで私達はマイクロチップについて調べる事にしました。今回の義務化の目的はペットの遺棄を防ぐことや、災害時などで飼い主とはぐれた場合にマイクロチップに登録された情報を元に飼い主と再会できる可能性を高めることなどがあります。マイクロチップは獣医師が正しい方法で埋め込みますが、知識不足の人が埋め込むという危険な行為もみられます。その行為はペット達にとってあってはならない事です。これらをふまえて、マイクロチップの使い方や管理方法を見直すべきだと考えました。ペットである犬や猫の安全を守るのは飼い主・ブリーダーの私達であり、責任感を持たなければなりません。私達の判断はペット達の将来そのものと言ってもいいでしょう。

